



# 平成31年2月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年7月6日

上場会社名 株式会社 吉野家ホールディングス  
 コード番号 9861 URL <http://www.yoshinoya-holdings.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河村 泰貴

問合せ先責任者 (役職名) グループ財務経理本部長 (氏名) 鶴澤 武雄

TEL 03-5651-8800

四半期報告書提出予定日 平成30年7月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成31年2月期第1四半期の連結業績(平成30年3月1日～平成30年5月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第1四半期	49,794	2.7	178		44		388	
30年2月期第1四半期	48,493	4.2	748	393.3	837	162.0	419	222.3

(注) 包括利益 31年2月期第1四半期 701百万円 ( %) 30年2月期第1四半期 166百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年2月期第1四半期	6.01	
30年2月期第1四半期	6.51	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年2月期第1四半期	119,027	56,543	47.0
30年2月期	115,613	57,807	49.5

(参考) 自己資本 31年2月期第1四半期 55,974百万円 30年2月期 57,263百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年2月期		10.00		10.00	20.00
31年2月期					
31年2月期(予想)		10.00		10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成31年2月期の連結業績予想(平成30年3月1日～平成31年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	105,000	7.5	2,200	3.0	2,500	2.1	1,450	12.4	22.47
通期	211,000	6.3	4,100	2.0	4,700	2.1	1,700	14.0	26.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年2月期1Q	65,129,558 株	30年2月期	65,129,558 株
期末自己株式数	31年2月期1Q	581,232 株	30年2月期	580,561 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年2月期1Q	64,548,644 株	30年2月期1Q	64,521,368 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 8
(継続企業の前提に関する注記)	P. 8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 8
(セグメント情報等)	P. 8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(平成30年3月1日から平成30年5月31日まで)の連結業績は、連結売上高が497億94百万円(前年同期比2.7%増)、連結営業損失1億78百万円(前年同期比9億26百万円減)、連結経常損失44百万円(前年同期比8億81百万円減)、親会社株主に帰属する四半期純損失は3億88百万円(前年同期比8億7百万円減)と増収・減益となりました。

売上高は前年同期に対して13億1百万円の増収となりました。これは主力事業である吉野家の既存店売上高が好調に推移したことや、積極的に出店を進めている、はなまる・京樽・海外セグメントの売上高が増加したことによるものであります。しかしながら、肉・米を中心とした食材価格の上昇や、労働力を確保するための採用・教育コストが上昇したこと、アルバイト・パート時給の上昇などもあり人件費が増加したこと等により減益となりました。厳しい経営環境ではございますが、付加価値の高い商品や季節商品の投入を積極的に行うことで、集客を図ってまいります。また、従業員の働きやすい環境を提供し、充足率・定着率を向上させ、適切な労働時間での運営を行いながら、労働生産性を高め収益性を回復してまいります。

当社グループでは、2025年を最終年度とした長期ビジョン「NEW BEGINNINGS 2025」の実現を目指し、「3カ年中期経営計画」が進行しており、当期を含むファーストステージの3年間は、セカンドステージ以降における成長のシーズを生み出す3年間と位置付け、「ひと・健康・テクノロジー」をキーワードに、「飲食業の再定義」を目指し、これまでの飲食業になかった新しい価値創造に向け活動しております。

ファーストステージの最終年度となる当期につきましては、拡大期と位置づけているセカンドステージに向け、主要セグメントである吉野家において、検証中の新サービスモデルの完成を目指すとともに、はなまる・京樽及び海外セグメントにおいては出店による成長・規模拡大を引き続き進めてまいります。

セグメント概況につきましては、次のとおりであります。

#### [吉野家]

売上高は、249億9百万円と、対前年同期比3.8%の増収となりました。

増収の主な要因は、既存店売上高が好調に推移したことであり、4月にはなまるとのコラボ企画「毎日80円引き!定期券」を、5月に約800店舗で「金のオリジナルグッズ」がもらえる「スタンプキャンペーン」を、また、25歳以下の学生を対象とした「LINE学割キャンペーン」を実施し、新規顧客の獲得と既存顧客の来店頻度向上を図りました。商品施策としては、3月に豚肉の旨みが際立つ甘辛たれで和えた「新味豚丼」を、4月には鶏肉本来の歯ごたえと旨みが感じられるように仕上げた「鶏すき丼」を販売するなど、豚肉や鶏肉を使った商品を導入したこと、「吉野家の晩ごはん」第3弾としてお客様の目の前で炙るシズル感のある「炙り塩鯖定食」を販売することで、時間帯別のお客様の多様なニーズにお応えいたしました。また、新規顧客の獲得と労働生産性向上や従業員の労働負荷の軽減を目的として、次世代の店舗フォーマット創りの実験を行っており、中期経営計画セカンドステージ以降の店舗改装に向け、今期中の新サービスモデルの完成を目指します。セグメント利益は、既存店売上高が好調に推移し増収したものの、原材料価格の高騰や人件費の増加等により5億11百万円と、対前年同期比44.1%の減益となりました。同期間の店舗数は、10店舗を出店し、10店舗を閉鎖した結果、1,200店舗となりました。

#### [はなまる]

売上高は、73億55百万円と、対前年同期比9.7%の増収となりました。

増収の主な要因は、積極的な出店に伴う店舗数の増加であります。ファーストステージにおいては、事業規模の拡大を図り500店舗体制に向け出店をさらに加速してまいります。販売施策として3月15日に1日限定で「温玉ぶっかけ」半額キャンペーンを実施し、また、4月に吉野家とのコラボ企画「天ぷら定期券」を実施し相互送客により新規顧客の獲得と来店頻度の向上を図ることができました。加えて季節商品として、4月にはアイドルグループとのコラボ企画「サラダうどんファン投票」を実施し、第一位に選ばれた「ハニーマスタードチキンサラダうどん」を販売いたしました。5月には前期ご好評をいただいた、香川県の名産品のひとつであるそうめんを「うどん県のそうめん」として販売し、お客様の様々なニーズにお応えいたしました。今後もお客様満足度の向上につながる販売促進および商品開発に努めてまいります。セグメント利益は、店舗数の増加等により増収したものの、既存店売上高が前年未達であったことや、物流コストの高騰等の影響により、3億92百万円と、対前年同期比15.4%の減益となりました。同期間の店舗数は、13店

舗を出店し、4店舗を閉鎖した結果、488店舗となりました。

#### [アークミール]

売上高は、53億46百万円と、対前年同期比7.1%の減収となりました。

減収の主な要因は、ステーキ・しゃぶしゃぶ業態における競争が激化し、店舗数が減少したことによるものであります。キャンペーン施策としては、ご好評をいただいている「肉の日」をお子様と楽しめるイベントにブラッシュアップしたことや、全業態でGW限定メニューの販売や、女性限定デザート食べ放題の「母の日キャンペーン」を実施いたしました。既存業態の客数回復策として、3月から「フォルクス」において、3つのバーをリーズナブルに堪能できる「4 Value Lunch」の導入や、「ステーキのどん」において、サラダやドリンクバー等をお楽しみ頂ける、お得な「セットメニュー」の導入や、全業態で春フェアメニューを販売いたしました。しかしながら、減収によりセグメント損失は、86百万円と、前年同期に比べ1億54百万円の減益となりました。同期間の店舗数は、1店舗を出店した結果、179店舗となりました。

#### [京樽]

売上高は、69億58百万円と、対前年同期比2.2%の増収となりました。

増収の主な要因は、都心を中心に積極的に出店を行っております「海鮮三崎港」を含む回転寿司業態の店舗数の増加による売上高の伸長に加え、ご好評をいただいているテイクアウト事業における「中巻セール」や“ハレの日”の各セール、外食事業における「本まぐろ祭」「(赤皿)99円セール」「39セール」を効果的に実施し、また、各業態で「春メニュー」を販売したことにより既存店売上高が堅調に推移したこと等であります。また、回転寿司業態では、産地指定した旬の食材を用いた商品を販売するなど差別化を図りました。セグメント利益は、店舗数の増加等により増収したものの、原材料価格の高騰等により2億6百万円と、対前年同期比15.5%の減益となりました。同期間の店舗数は、4店舗を出店し、7店舗を閉鎖した結果、327店舗となりました。

#### [海外]

売上高は、50億5百万円と、対前年同期比8.4%の増収となりました。

増収の主な要因は、アメリカ・台湾の売上高が好調に推移したことや、フランチャイズも含めた積極的な出店により店舗数が増加したことによるものであります。セグメント利益は、各エリアで原材料価格が高騰したことや、出店や改装に伴う減価償却費が増加したことにより、1億14百万円と、対前年同期比63.6%の減益となりました。同期間の店舗数は、24店舗を出店し、12店舗を閉鎖した結果、833店舗となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ34億13百万円増加し、1,190億27百万円となりました。これは主として、現金及び預金が20億34百万円、投資有価証券が9億29百万円増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ46億77百万円増加し、624億83百万円となりました。これは主として、長期借入金が51億5百万円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ12億63百万円減少し、565億43百万円となり、自己資本比率は、前連結会計年度末比で2.5ポイント減少し47.0%となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年2月期の連結業績予想(平成30年3月1日～平成31年2月28日)は、既に公表しておりますものから修正は行っておりません。なお、当該業績予想は、当社グループが現時点までに入手可能な情報から判断して、合理的であるとした一定の条件に基づいたものです。実際の業績は、「天候」「景気動向」等の様々な要因により異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,913	23,948
受取手形及び売掛金	5,764	4,073
商品及び製品	2,765	2,931
仕掛品	35	56
原材料及び貯蔵品	2,943	3,758
その他	3,706	4,664
貸倒引当金	△4	△2
流動資産合計	37,124	39,430
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	29,402	29,792
その他(純額)	17,209	17,227
有形固定資産合計	46,611	47,019
無形固定資産		
のれん	1,405	1,448
その他	2,696	2,686
無形固定資産合計	4,102	4,134
投資その他の資産		
投資有価証券	4,546	5,476
差入保証金	15,693	15,754
繰延税金資産	1,950	1,828
その他	5,786	5,584
貸倒引当金	△202	△200
投資その他の資産合計	27,775	28,441
固定資産合計	78,489	79,596
資産合計	115,613	119,027

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,985	5,839
短期借入金	5,805	6,084
1年内返済予定の長期借入金	6,465	6,106
リース債務	1,037	1,024
未払法人税等	1,011	165
賞与引当金	1,493	2,194
役員賞与引当金	24	15
株主優待引当金	268	441
資産除去債務	24	33
その他	11,564	11,436
流動負債合計	33,681	33,341
固定負債		
長期借入金	17,439	22,544
リース債務	2,315	2,233
退職給付に係る負債	648	630
資産除去債務	2,708	2,747
その他	1,012	985
固定負債合計	24,124	29,141
負債合計	57,805	62,483
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,534	11,563
利益剰余金	38,236	37,203
自己株式	△712	△713
株主資本合計	59,324	58,318
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7	4
為替換算調整勘定	△2,040	△2,320
退職給付に係る調整累計額	△28	△27
その他の包括利益累計額合計	△2,061	△2,343
非支配株主持分	544	569
純資産合計	57,807	56,543
負債純資産合計	115,613	119,027

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年5月31日)
売上高	48,493	49,794
売上原価	16,847	17,817
売上総利益	31,646	31,977
販売費及び一般管理費	30,898	32,156
営業利益又は営業損失(△)	748	△178
営業外収益		
受取利息	10	10
受取配当金	0	55
賃貸収入	90	85
持分法による投資利益	37	74
雑収入	143	163
営業外収益合計	281	390
営業外費用		
支払利息	57	42
為替差損	28	77
賃貸費用	58	56
雑損失	48	78
営業外費用合計	192	255
経常利益又は経常損失(△)	837	△44
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
減損損失	50	76
契約解約損	13	6
特別損失合計	64	83
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	773	△127
法人税、住民税及び事業税	505	345
法人税等調整額	△145	△60
法人税等合計	359	285
四半期純利益又は四半期純損失(△)	413	△412
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△6	△24
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	419	△388

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	413	△412
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1	△2
為替換算調整勘定	△177	△248
退職給付に係る調整額	△0	0
持分法適用会社に対する持分相当額	△67	△38
その他の包括利益合計	△247	△288
四半期包括利益	166	△701
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	175	△670
非支配株主に係る四半期包括利益	△9	△30

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	アーク ミール	京樽	海外	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	23,727	6,634	5,736	6,763	4,617	47,479	1,014	48,493	—	48,493
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	274	67	18	46	—	406	135	542	△542	—
計	24,001	6,701	5,755	6,810	4,617	47,886	1,150	49,036	△542	48,493
セグメント利益	915	464	68	244	314	2,005	13	2,018	△1,270	748

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社8社を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,270百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,292百万円、セグメント間取引消去67百万円及びのれんの償却額△45百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自平成30年3月1日至平成30年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	アーク ミール	京樽	海外	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	24,665	7,284	5,326	6,909	5,005	49,191	603	49,794	—	49,794
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	243	70	20	49	—	384	135	519	△519	—
計	24,909	7,355	5,346	6,958	5,005	49,575	738	50,314	△519	49,794
セグメント利益 又は損失(△)	511	392	△86	206	114	1,138	6	1,144	△1,323	△178

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社8社を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,323百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,347百万円、セグメント間取引消去66百万円及びのれんの償却額△42百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。